



カトリック六甲教会 教会報

2015

6

No.522



6月はイエスのみ心の月



イエスのみ心は全人類に対する神の愛の象徴としてイエスの心臓を表し、その信心はイエスのみ心に表される神の愛を思い起こし、その無限の愛のしるしであるみ心をたたえるものとして中世に始まりました。

特に聖マルガリタ・マリア・アラコック（1647-90）がみ心の信心についての啓示を受けて17世紀にフランスで広まりました。1675年6月16日、この聖女はご聖体を前にして、イエスの愛にこたえたいという思いに駆られました。そのときイエスは、愛情に燃えているみ心を示して、人々の間に欠けている冷淡な心を嘆かれ、イエス自身の愛に倣ってその心を尊ぶことを勧められました。

またこのようなイエスの出現が数回にも及び、ご聖体の祝日(キリストの聖体)後の金曜日をみ心を礼拝する特別な祝日として定めるようにとのお告げにより、み心の信心の内容と形式が明確にされるようになりました。

そして1856年に教皇ピオ9世によってイエスのみ心の祭日のご聖体の祝日後の金曜日に全世界で祝うことが定められました。ご聖体とみ心の主日がおおよそ6月に祝われるというこのような歴史からして、次第に6月が「イエスのみ心の月」と自然に浸透し、制定されてきたことは十分に考えられます。
(カトリック中央協議会 HP より)

聖体顕示についてのお知らせ

6月12日（金）10時～12時まで、イエスのみ心の祭日に『聖体顕示』を行います。

ご聖体の前で祈りを深め、私達の日々の暮らしが、神様の愛によって支えられていることを実感したいと思います。また、キリストのもとにとどまって親密さを味わい、主のみ前に心を打ち明け、自分のため、親しい全ての人のため、平和と世の救いのためにもお祈りいたしましょう。 多数の皆様のご参加を、お待ちしております。 (典礼部)





ナルドの花たより

自分の殻に閉じこもって病を患っている教会よりも、傷を負っていても通りに出ている教会の方がずっとましです

It is better to have a Church that is wounded but out in the streets than a Church that is sick because it is closed in on itself. (2015/05/16)

ご両親の皆さん、大いなる忍耐をもって、心の底からゆるしてあげてください

Dear parents, have great patience, and forgive from the depths of your heart. (2015/05/14)

周りの人の失敗をゆるすのは、なぜこうも難しいのでしょうか。イエスが私たちの罪を負って下さったことを忘れてしまったのでしょうか

Why is it so difficult to tolerate the faults of others? Have we forgotten that Jesus bore our sins? (2015/05/13)

親切に生き、たとえ人々が私たちが愛していなくとも、あらゆる人を愛することを学びましょう

Let us learn to live with kindness, to love everyone, even when they do not love us.

(2015/05/09)

～教皇フランシスコ ツイートより～

2015 年度第 1 回小教区評議会議事録



- ★ 日 時 : 2015 年 5 月 10 日 (日) 12:30～14:15
- ★ 場 所 : 信徒会館 第 4 会議室
- ★ 出席者 : アルフレド主任司祭、高山神父、議長団、評議員、その他関係者

1. 主任司祭挨拶

2. 協議事項

- (1) 神戸地区大会について (5 月 31 日 (日) 13:00～六甲学院にて開催)
- (2) 小教区評議会財務報告会について (6 月 14 日 (日) 10 時ミサ後、聖堂にて開催)
- (3) 小教区評議会の運営について
- (4) 聖堂内の赤絨毯の取り扱いについて
- (5) 典礼聖歌集について
- (1) 2015 年 4 月度「神戸地区宣教司牧評議会」報告
- (2) 東ブロック合同堅信式について (5 月 24 日 (日) 10:00～神戸中央教会にて開催)
- (3) その他
(社会活動部) (典礼部) (広報部)

以上

体で語る 80歳の

林 尚志神父様

聖霊と共に下関から
六甲に新しい風が!

社会活動部 コーディネーター 井川

年に一度開かれる学習会が、5月17日、2時よりイグナチオホールで行われました。今年も、28年前から下関労働教育センターを拠点に活動しておられるイエズス会の林尚志神父様をお招きし、神父様の体験から盛りたくさんのお話をさせていただきました。この学習会に何人参加されるか不安でしたが、10時の子どもとともに捧げるミサで、子どもたちの前でユーモア交えながら体全身で語られた林神父様の姿に感動されたせいか再び2時に足を運んでく



きた方もあり、思いのほかイグナチオホールを埋め尽くすほどのたくさんの方が来ていただきました。私が印象に残ったのは、ミサの最後に神父様がおっしゃる言葉、「感謝の祭儀を終わります。行きましょう」の意味でした。どこへ行くのか？ユートピアではなく、愛、平和、正義のない地の果てへです。私たちは、イエス様のパンをいただいて、また1週間新たな気持ちで、家庭、職場、などに派遣され、そこで、イエス様が行ったように自分のできる範囲で、愛、平和、正義のない所を、あるところへと変えていく働きがある、という意味でした。面白い神父様のお話の中に、重みのある内容がたくさん秘められていることに気づかされました。

以下、学習会に参加されたかたの感想です。



お話を聞いて、林神父様の活動の範囲や関心の幅の広さに圧倒されると同時に、その活力の源泉が愛そのものであることが伝わってきて感動しました。私たちの最大の敵は今の自分の快適さの中に安住してしまい、周囲で行われている不正を黙認(=消極的な荷担)してしまうことですね。正義に反することを見たとき、聞いたときの怒りを忘れないようにしなければならぬと感じました(もちろんキリストの復活の喜びも忘れてはいけませんが…)。神父様の「自分から動けばかならず風は吹く」というおことばを励みに、言い訳をせず飛び出していきますように。(中西)

《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

📌 小教区評議会

6月14日(日) 10:00 ミサ後 財務報告会(聖堂)

📌 三日月会

6月15日(月) 14:00 ミサと懇親会

📌 施設管理部

6月28日(日) 13:00 部会

📌 典礼部

6月21日(日) 13:00 典礼奉仕者の集い

📌 教会学校

6月7日(日) 遠足

📌 広報部

6月27日(土) 10:00 教会報7月号印刷

“典礼奉仕者の集い”に向けて

典礼部では「典礼奉仕者の集い」を6月21日(日)13:00より第1・第2会議室で行います。今回は大阪教区が発行している「新生計画20周年振り返りシート」を使って意見を交換したいと思います。典礼奉仕に従事しておられる方は、できるだけ早い機会に事務所でこのシートを受け取り、事前にシートの中の「20年を振り返って」の部分に記入できるよう考えてください。必ずしも全部記入する必要はありません。自分の記入できる部分を考えてみてください。当日は、アルフレド神父様の説明の後、シートの記入を行い、その後、意見交換をしたいと思います。

《 お 知 ら せ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

6月 3日(水)10時 手芸の集い(第1,2会議室) どなたでも参加ご自由です。

13日(土)10時 炊き出し(イグナチオホール、お台所)

小野浜グランドにて、おじさん達の話相手や配食だけでもOKです。

21日(日)10時ミサ後 ふれあい広場 (イグナチオホール)

22日(月)9時30分 ともしび会 ケーキ作り (イグナチオホール、お台所)

★納涼の夕べ・イベント参加者募集のお知らせ★

夏季開催「納涼の夕べ」イベントに参加して頂ける方(グループ)を募集致します。

月日 8月15日(土)

場所 教会駐車場 (雨天時 イグナチオホール)



歌、ダンス、演奏など1ステージ15分位でお願いします。内容は特別に設けてはいません。あなたの応募をお待ちしています。多数応募の場合は、お断りする場合も有ります。

応募締め切り日 6月28日10時ミサ終了後まで

問い合わせ/申込: 納涼の夕べ実行委員会 木村、牛尾、安田

あなたの所属している地区会長まで



<墓地っこだより>

個人墓地の利用者の皆様に、2015年度の墓地管理費の請求書を郵送しました。同封の払込取扱票をご利用ください。納期は6月末日です。

払込取扱票の通信欄にはご希望、ご質問などがあればお書き下さい。

尚、この取扱票は利用者の所在確認の目的でもありますので、複数年分の支払いは出来ません。ご理解のほどよろしく願いいたします。

(墓地委員会 SF)



みんなの広場

ラウダ・シオン

今年、6月最初の主日は「キリストの聖体」の祭日になる。この祭日は嘗て「三位一体の主日」後の木曜日に祝われていた。それを態々主日に移してまで祝い続けるのはなぜか。

わたしたちは聖木曜日に聖体制定を記念する。嘗ては聖木曜日のミサ後聖金曜日の祭式まで、仮祭壇に移された聖体の前で、交代で聖体に祈り続けた。聖金曜日を前にした聖木曜日、手放して祝うことはなかった。13世紀、リエージュのユリアナ・ド・レティヌ修道女によって改めて「キリストの聖体」を祝うようになり、後にウルバノ4世、クレメンテ5世によって全教会の祝日に定められたという（毎日のミサ典書、ドン・ボスコ社、1955年参照）。

20世紀初め頃、世界不安の中で聖ピオ10世は『聖体の秘跡』によって生きることを新たに強調した。教皇はすでに1905年『聖体拝領』の教令を全世界に送り、さらに1910年に、それまでなかった7歳の子供たちに聖体を授け、子供の聖体拝領を奨めた。毎年行われる子供の「初聖体式」はここに始まる。聖ピオ10世は全世界のカトリック教徒に何よりもキリストの聖体によって生きることを教えた教皇であった（鈴木宣明、ローマ教皇史、教育社1980年参照）。

ミサでは当然のこととして「聖体」を拝領する。当然だがその度に、聖体の何かをどれほど意識しているだろうか。毎日信徒の誰かが教会の門をくぐる。その中の何人が聖櫃の前に跪くか。どうして「聖体」の前を素通りできるのか。

昨今殆ど忘れられている、嘗て聖体の祝日に続唱として歌われたアキノの聖トマ作とされる聖体賛歌「ラウダ・シオン」を掲げておく。文体は古いが敢えてそのままにする。

「シオンよ、汝が救主を讃へよ、讃歌と頌栄とをもて汝が王、汝が牧者を讃め謳へ。汝が力の限り主をば讃へよ。主は萬の讃美に優りて偉大なり、いかなる讃美も主に足ることなし。今日しも謳ひ奉るは生けるパン、人の生命の素にこそあれ。是ぞ聖き晩餐の折に主が十二聖徒に與へしそのパンなる。奇しき聖業に適はしき頌歌、御意にかなふ讃美の歌もて、汝が歡喜を高らかにのべよ。蓋は今日こそ、主の饗宴の制定を祝はん莊嚴の日なれば。新約の王は新約の法の過越祭定めて、舊約の過越をば収め給へり。新たのものは舊きに代り、実態は假象を、光明は暗黒をば遂に除けり。キリストその晩餐に自ら爲せし記念に爲せと宣はせ給へり。我等聖き制定に教へられ、パンと葡萄酒とを救ひの犠牲に聖別し奉る。パンは御肉に、葡萄酒は御血に化するの教義を信ずる者に與へらるゝなり。自然の法をば越えて、通曉らざる事、見えざる事をも生ける信仰は確かむるなり。異なる形のもとに、實際ならで、假象のみ、尊き現實はかくれ潜めり。御肉は糧に、御血は飲料に、いづれのものにも完きキリストこもり居ませり。これを領くるも切らるゝ事なく、劈かるゝ事なく、折たるゝ事なく全體を領くるなり。一人領くとも千人領くとも、ひとしく饗けてぞつくる事なき。善きも悪しきも共に饗くれども一は生命に、一は死滅に至るの差別ぞ。善きには生命、悪しきに死滅、看よ、同じく領くともその果ては違ふ。秘跡は劈かるとも夢な迷ひそ、斷片にこもるは全體とおなじきを。折たるものは假象のみにて、實體は劈かれず、減ることなし。看よ、天使のパンは旅人の糧となり、實に子等の糧なれば、犬には投るまじ。舊約のイザアクの犠牲、過越祭の羔、荒野に先祖の受けたるマンナ、そは皆その前表に外ならず。善き牧者、實の糧なるイエズス、我等を憐み、我等を牧し、我等を護り、生ける者の国にて幸福をば見しめよ。萬を識り萬を能ひ給へば、世を經る我等を養ひ給ひて、何れの日にか諸聖者諸共世嗣を受けしめ、共に饗宴に與らしめ給へ。アメン、アレルヤ。」（彌撒典書。光明社1953）

（ヨハネ三好）

復活節第6主日（5月10日）の題は

「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない（ヨハネ15・3）」でした。

日本二十六聖人長崎への道巡礼マップ（カトリック中央協議会）17ページによると「知音に対して命を捨てるよりも、勝りたる大切はなし」と表現されています。

5月1日に神戸中央教会で、山口県宇部市からの、片柳弘史神父の報告会および交流会がありました。片柳さんの文章と世界中に笑顔を広げるアーティストR I Eさんの絵の絶妙な組み合わせの絵本「The Love 世界で一番たいせつなあなたへ」マザー・テレサからの贈り物（PHP研究所）を即買いました。

私は、大したことはできませんが、この本に描かれているとおり、あなたに出会えてうれしいよって表していきたいと思います。

昨日（5月9日）、パウロ書店（三宮加納町）で、絵本の読み聞かせ会がございました。会が終わった後、マザー・テレサおみくじと、はいいっこり！/メリープロジェクトのカードをいただきました。おみくじには愛されるより愛することを、カードには、メリーちゃん（そういう絵が描いてある）といっしょに森の中をおさんぽしよう！泣いたり怒ったり、けんかをしているおともだちに出会ったら、「はいいっこり！」のかけ声で、笑顔をプレゼント、お友達へ、家族へ、一人ひとりの笑顔がどんどん広がって・・・地球もいっしょに「はいいっこり！」。最後はあなたに、笑顔がかえってくるよ！（女子パウロ会2015年5月1日発行）って書いてあったよ。（MAYA 702）

信徒会館入口の松の木の下にある植物のことです。

アカンサス — 葉アザミ属の植物。ギリシャの国花であり、ギリシャ建築の柱の上部等の装飾にこの葉のデザイン化したものが多いとか・・・。色濃く、力強くもり上がる葉は雨にぬれるとつやつやと輝く、やがて紫色の小花をまとった花茎が天をさして立ち上がっていく。

梅雨の季節、あじさいの風情もいいものですが、私はこの葉っぱとまっすぐに立ち上がる花の勢いに心地よいものを感じています。（テレジア）

光と闇3 —闇が光になる瞬間—

「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」（ルカ23：43）

この瞬間、罪人にとって世界はすべて変わってしまったことでしょうか。罪人にとって最早、死の恐れはおろか、十字架に釘づけにされている苦痛も、横にいるもうひとりの罪人も、十字架下に佇む人たちの嘲りも悲しみも、己の犯した罪への悔恨も、すべてが消え失せ、ただ、目の前にいらっしやるイエス様を恍惚と見上げていたのではないのでしょうか？この瞬間、世界には主と自分しか存在しなかったのではないのでしょうか？

私にはこれが、イエス様が十字架上で死んでくださった意味のように思われます。（イエス様を通して）すべてを凌ぐ神ご自身を、神の救いの方法を私たちに示すために。

十字架上での救い——これこそ聖なる方と、例え十字架上で千回死ぬことが可能であったとしても私たち被造物との絶対的な隔たりであり、インマヌ・エル（神が共にいてくださること）に気づいた時、私たちの口をついてでるのは主への賛美であり、主の支配下に生きる歓喜の瞬間、主の「救い」の磁力の中に飲み込まれ、自己のすべてが消え失せる瞬間、闇が光となる瞬間、主の平安の中に没し去る瞬間ではないのでしょうか。この罪人ほどしあわせな人は聖書の中にどれほどでてくることでしょうか！

「その罪人を下せ」——このとき、もしもそういわれたら、罪人は「これこそ奇跡」と喜んでみませんか？ イエス様から離れて十字架を降りたいと望んだみませんか？

もしも恩赦があって十字架から降ろされたら、罪人はどのように生きるでしょうか？ 罪は犯すかもしれません。けれども一度いのちの水を飲んだものは、そのすべてが変えられてしまったことでしょうか。主の教えに従い善いことをしたい、福音を宣べ伝えたいと思ったことでしょうか。それは主への絶対的な服従、愛（神）に対する愛（喜び）による服従の願いではないでしょうか。

この世を旅する私たちは、ある意味この罪人と同様、十字架に釘づけにされて道程を歩んでいるように思えます。死の恐れ、悲しみ、苦痛、罪への悔恨、不条理に思われること…。けれども過去も現在も未来も主は宣言し続けてくださいます、「あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」と。

私たちは自らの行いによってでは「全く」なく、ただ、「はっきり言うておく」という主の宣言、みことばによって、「樂園」に生きることが可能なのでしょうか。

「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。」（ヨハネ 1:1）、

「言の内に命があった。」（同 1:4）

皆様とともに、みことばの中に、福音の中に生きる喜びをひとりでも多くの方に伝えたいと願います。
(マリア)

ボランティアグループの紹介 その2

教会報 5月号の最後のページでお知らせしましたように、社会活動部では毎月、一つずつボランティアグループの紹介を致します。今月はその2、「東北支援」です。

《東北支援物産展について》



東北支援物産展で信徒の皆様にご協力いただき3年あまりになります。

東日本大震災の翌冬、何か私達にもできることがないかと教会から伺った被災地で出会ったのは、地震と津波ですべてをなくしても、静かに力強く生きる人々でした。

その後、東北支援を続けていらっしゃる信徒の方を通して、せっかく自分たちで立ち上がろうと商売を再開しても、皆同じような状況で買い手がいないとの嘆きを聞き、少しでも協力できるなら、と福島から届く野菜や果物、海産物・三陸のわかめ、おせんべいや塩飴などをふれあい広場で販売をはじめました。いつも大好評で、売り切れになることもありました。

5月には日本酒を販売いたしました。金寶酒造・新井田本家の日本酒です。ここは300年続いた造り酒屋さんで、日本で初めての純米酒を作った酒屋さんです。田んぼから徹底的に管理して無農薬米で作った、薫り高いまろやかな日本酒です。「お酒は体にいい飲み物でなければ」という理念で作られています。

これからも福島県の支援の物をお届けいたします。どうぞご協力お願いいたします。

教会報 7月号の発行は、6月 28日(日)です。 原稿は、6月 14日(日)正午までに事務受付へ ご提出ください。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp	カトリック六甲教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電話 / FAX 078-851-2846 / 078-851-9023 発行責任者 アルフレド・セゴビア 編集 広報部
---	--